



参議院議員

日本共産党

JCP HOPE



ito_gaku 検索

伊藤 岳 ニュースレター

2019年11月20日 NO.4



参議院事務所 〒100-8962 千代田区永田町 2-1-1 参議院議員会館 609 tel.03-6550-0609 fax.03-6551-0609
埼玉県事務所 〒330-0835 さいたま市大宮区北袋町 1-171-1 tel.048-658-5551 fax.048-647-5755
E-mail jcp.saitama-kokkai@ymail.plala.or.jp

”まさに「現場主義」をつらぬいた質問”と反響



14日 環境委員会で初質問を行う伊藤岳議員

初質問を終えた伊藤議員のあいさつ

11月14日、国会初質問を皆さんのお力を借りて無事終わることができました。ようやく「国会議員になったんだ」という実感が湧いてきました。「現場の声を第一」に、これからも引き続き頑張っまいります。
…伊藤岳

環境委員会の16席の傍聴席は各地から応援にかけつけた人でいっぱい。「初めてとは思えない!」「まさに現場主義を貫いた質問」と次々と反響が寄せられています。

朝日新聞デジタルで質問直後に『落選18年からの異例の当選 初質問の相手はあのプリンス』と特集記事が配信されました。



さいたま市議団と桜環境センターを視察する伊藤岳参議院議員(10月7日)

災害ゴミ処理「国の支援強化を」

「必要な人的支援を丁寧に行う」(大臣答弁)

伊藤岳議員は、今回の質問にあたって、東松山市などの被災自治体をまわり、住民や議員、自治体職員から直接話を聞き、調査しました。

東松山では1万8666トンの災害廃棄物がでており、その処理を1日当たりの焼却がわずか90トンの施設

で行っているという実態を取り上げ、運搬・処理の支援のため計92人を派遣している環境省の対応では不十分だと指摘しました。小泉進次郎環境大臣は「引き続き必要な人的支援を丁寧に行う」と述べました。

廃プラ処理の自治体押しつけ撤回を

熱回収(焼却処理)の戦略の見直しを要求

さらに伊藤氏は、気候変動につながる二酸化炭素を排出する廃プラスチックの焼却計画を抜本的に改めるよう求めました。

中国などが廃プラスチックの輸入を禁止するもとの、国は通知で市町村に廃プラスチックの焼却を要請しています。伊藤氏は、さいたま市のごみ処理施設の実態も示しながら、全国で焼却受け入れを表明した市町村はないことを明らかにし、通知の撤回

を要求。「通知は緊急避難措置だ」と拒否する小泉大臣に対し伊藤氏は「リサイクルを外国に頼り切ってきたことが『緊急事態』を招いた」と迫りました。

伊藤氏は、国内の廃プラスチック「リサイクル」の58%が二酸化炭素を排出する「熱回収」(焼却処理)だと指摘し、「熱回収」を容認する国の計画・戦略の抜本見直しを要求しました。

